新人看護職員研修ガイドライン到達目標修正案

＊今回修正にあたり便宜上、各項目に通し番号を追加している

資料　1

【看護職員として必要な基本姿勢と態度についての到達目標】

※第2回検討会後の修正案は斜体字で記載

【到達の目安】
★：1年以内に*経験し修得*<u>*到達*</u>を目指す項目
Ⅰ：できる
Ⅱ：指導の下でできる
Ⅲ：演習でできる
Ⅳ：知識としてわかる

現行					修正案						
項目			★	到達の目安	項目			★	到達の目安	修正の理由	根拠となるデータ
①看護職員としての自覚と責任ある行動	1	①医療倫理・看護倫理に基づき、人間の生命･尊厳を尊重し患者の人権を擁護する	★	Ⅰ	①看護職員としての自覚と責任ある行動	①医療倫理・看護倫理に基づき、人間の生命･尊厳を尊重し患者の人権を擁護する		★	Ⅰ		
	2	②看護行為によって患者の生命を脅かす危険性もあることを認識し行動する	★	Ⅰ		②看護行為によって患者の生命を脅かす危険性もあることを認識し行動する		★	Ⅰ		
	3	③職業人としての自覚を持ち、倫理に基づいて行動する	★	Ⅰ		③職業人としての自覚を持ち、倫理に基づいて行動する		★	Ⅰ		
②患者の理解と患者・家族との良好な人間関係の確立	4	①患者のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する	★	Ⅰ	②患者の理解と患者・家族との良好な人間関係の確立	①患者のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する		★	Ⅰ		
	5	②患者を一個人として尊重し、受容的・共感的態度で接する	★	Ⅰ		②患者を一個人として尊重し、受容的・共感的態度で接する		★	Ⅰ		
	6	③患者・家族<u>が納得できる</u>説明を行い、同意を得る	★	Ⅰ		③患者・家族<u>にわかりやすい</u>説明を行い、同意を得る		★	Ⅰ	○*わかりやすい説明によって納得と同意は得られるため、*行動を表現する文言として「わかりやすい説明」に修正。	
	7	④家族の意向を把握し、家族にしか担えない役割を判断し支援する	★	Ⅱ		④家族の意向を把握し、家族にしか担えない役割を判断し支援する		★	Ⅱ		
	8	⑤守秘義務を厳守し、プライバシーに配慮する	★	Ⅰ		⑤守秘義務を厳守し、プライバシーに配慮する		★	Ⅰ		
	9	⑥看護は患者中心のサービスであることを認識し、患者・家族に接する	★	Ⅰ		⑥看護は患者中心のサービスであることを認識し、患者・家族に接する		★	Ⅰ		
③組織における役割・心構えの理解と適切な行動	10	①病院及び看護部の理念を理解し行動する	★	<u>Ⅱ</u>	③組織における役割・心構えの理解と適切な行動	①病院及び看護部の理念を理解し行動する		★	<u>Ⅰ</u>	○組織の一員として、理念を理解し職務を担うことは社会人として必要であるため。	
	11	②病院及び看護部の組織と機能について理解する	★	Ⅱ		②病院及び看護部の組織と機能について理解する		★	Ⅱ		
	12	③チーム医療の構成員としての役割を理解し協働する	★	Ⅱ		③チーム医療の構成員としての役割を理解し協働する		★	Ⅱ		
	13	④同僚や他の医療従事者と<u>安定した</u>適切なコミュニケーションをとる	★	Ⅰ		④同僚や他の医療従事者と適切なコミュニケーションをとる		★	Ⅰ	○安定していることも含めて適切と評価すべきものであり、「安定した」は不要である。	
④生涯にわたる主体的な自己学習の継続	14	①自己評価及び他者評価を踏まえた自己の学習課題をみつける	★	Ⅰ	④生涯にわたる主体的な自己学習の継続	①自己評価及び他者評価を踏まえた自己の学習課題をみつける		★	Ⅰ		
	15	②課題の解決に向けて必要な情報を収集し解決に向けて行動する	★	Ⅱ		②課題の解決に向けて必要な情報を収集し解決に向けて行動する		★	Ⅱ		
	16	③学習の成果を自らの看護実践に活用する	★	Ⅱ		③学習の成果を自らの看護実践に活用する		★	Ⅱ		

【技術的側面：看護技術についての到達目標】

※第2回検討会後の修正案は斜体字で記載

【到達の目安】
★：1年以内に*経験し修得* *到達*を目指す項目
Ⅰ：できる
Ⅱ：指導の下でできる
Ⅲ：演習でできる
Ⅳ：知識としてわかる

現行					修正案						
項目			★	到達の目安	項目			★	到達の目安	修正の理由	根拠となるデータ
①環境調整技術	17	①温度、湿度、換気、採光、臭気、騒音、病室整備の療養生活環境調整（例:臥床患者、手術後の患者等の療養生活環境調整）	★	Ⅰ	①環境調整技術		①温度、湿度、換気、採光、臭気、騒音、病室整備の療養生活環境調整（例:臥床患者、手術後の患者等の療養生活環境調整）	★	Ⅰ		
	18	②ベッドメーキング（例：臥床患者のベッドメーキング）	★	Ⅰ			②ベッドメーキング　（例：臥床患者のベッドメーキング）	★	Ⅰ		
②食事援助技術	19	①食生活支援		Ⅱ	②食事援助技術		①食生活支援		Ⅱ		
	20	②食事介助　（例：臥床患者、嚥下障害のある患者の食事介助）	★	Ⅱ			②食事介助　（例：臥床患者、嚥下障害のある患者の食事介助）	★	Ⅰ	○嚥下状態の確認や誤嚥予防に関する観察や技術の習得は医療安全の観点からも新人看護職員でも必要。	【到達状況】「Ⅰ:できる」70.2%「Ⅱ:指導の下でできる」21%
	21	③経管栄養法	★	Ⅱ			③経管栄養法	★	Ⅰ	○最近の現場では点滴による栄養から、経口・経腸栄養への切り替えが早期に行われ、経管栄養法が多くなっている。	【妥当性】「妥当でない」16.9%【到達状況】「Ⅰ:できる」70.9%「Ⅱ:指導の下でできる」16.7%
③排泄援助技術	22	①自然排尿・排便援助（尿器・便器介助、可能な限りおむつを用いない援助を含む。）	★	Ⅰ	③排泄援助技術		①自然排尿・排便援助（尿器・便器介助、可能な限りおむつを用いない援助を含む。）	★	Ⅰ		
	23	②浣腸		Ⅰ			④浣腸		Ⅰ	○項目を臓器別及び難易度の順にまとめる。	
	24	③膀胱内留置カテーテルの挿入と管理		Ⅱ			③膀胱内留置カテーテルの挿入と管理		Ⅰ	○膀胱内留置カテーテルを留置した患者の看護を行う場面は多く、安全な挿入と管理は重要である一方、各施設の状況の相違を考慮し、「★なしⅠ」と設定する。	【妥当性】教育担当者が回答した「妥当でない」18.5%【妥当でない理由】医療機関等の状況により差はあるが、「Ⅰ」が妥当とする自由回答76件
	25	④摘便		Ⅱ			⑤摘便		Ⅱ	○項目を臓器別及び難易度の順にまとめる。	
	26	⑤導尿		Ⅰ			②導尿		Ⅰ	○項目を臓器別及び難易度の順にまとめる。	

現行					修正案						
項目			★	到達の目安	項目			★	到達の目安	修正の理由	根拠となるデータ
④活動・休息援助技術	27	①歩行介助・移動の介助・移送	★	Ⅰ	④活動・休息援助技術	①歩行介助・移動の介助・移送		★	Ⅰ		
	28	②体位変換（例：①及び②について、手術後、麻痺等で活動に制限のある患者等への実施）	★	Ⅱ		②体位変換（例：①及び②について、手術後、麻痺等で活動に制限のある患者等への実施）		★	Ⅰ	○どのような療養の場でも必要となる基本的な技術であり、新人看護職員にもできることが求められることから「★ありⅠ」とする。	【到達状況】 「Ⅰ:できる」80.3% 「Ⅱ:指導の下でできる」16.7% 【実施頻度】 「日常的にある」77% 「しばしばある」10.9%
	29	③関節可動域訓練・廃用性症候群予防		Ⅱ		③関節可動域訓練・廃用性症候群予防			Ⅱ		
	30	④入眠・睡眠への援助		Ⅱ		④入眠・睡眠への援助		★	Ⅱ	○卒業時の到達目標を考慮し、日中のみでなく1日を通した支援の技術であり、どのような療養の場でも必要な技術であるため「★あり」とする。	【卒業時の到達目標】 入眠・睡眠を意識した日中の活動の援助ができる→Ⅰ
	31	⑤体動、移動に注意が必要な患者への援助 （例：不穏、不動、情緒不安定、意識レベル低下、鎮静中、乳幼児、高齢者等への援助）		Ⅱ		⑤体動、移動に注意が必要な患者への援助 （例：不穏、不動、情緒不安定、意識レベル低下、鎮静中、乳幼児、高齢者等への援助）		★	Ⅱ	○どの療養の場においても高齢者・認知症患者は増加しており、必要性は高いため「★あり」とする。	【到達状況】 「Ⅰ:できる」50%、 「Ⅱ:指導の下でできる」40%
⑤清潔・衣生活援助技術	32	①清拭	★	Ⅰ	⑤清潔・衣生活援助技術	①清拭		★	Ⅰ		
	33	②洗髪		Ⅰ		②洗髪			Ⅰ		
	34	③口腔ケア	★	Ⅰ		③口腔ケア		★	Ⅰ		
	35	④入浴介助		Ⅰ		④入浴介助			Ⅰ		
	36	⑤部分浴・陰部ケア・おむつ交換	★	Ⅰ		⑤部分浴・陰部ケア・おむつ交換		★	Ⅰ		
	37	⑥寝衣交換等の衣生活支援、整容	★	Ⅰ		⑥寝衣交換等の衣生活支援、整容		★	Ⅰ		
⑥呼吸・循環を整える技術	38	①酸素吸入療法	★	Ⅰ	⑥呼吸・循環を整える技術	①酸素吸入療法		★	Ⅰ		
	39	②吸引（気管内、口腔内、鼻腔内）	★	Ⅰ		②吸引（*口腔内、鼻腔内、気管内*）		★	Ⅰ	*○難易度を考慮しカッコ内を並べ替える。*	
	40	③ネブライザーの実施	★	Ⅰ		③ネブライザーの実施		★	Ⅰ		
	41	④体温調整		Ⅰ		④体温調整		★	Ⅰ	○卒業時の到達目標との整合性を考慮し、「★あり」とする。	【到達状況】 「Ⅰ:できる」89% 「Ⅱ:指導の下でできる」8.2% 【卒業時の到達目標】 患者の自覚症状に配慮しながら体温調節の援助ができる→Ⅰ
	42	⑤体位ドレナージ		Ⅱ		⑤体位ドレナージ			Ⅱ		
	43	⑥人工呼吸器の管理		Ⅳ		⑥人工呼吸器の管理			Ⅳ		

現行					修正案						
項目			★	到達の目安	項目			★	到達の目安	修正の理由	根拠となるデータ
⑦創傷管理技術	44	①創傷処置		Ⅱ	⑦創傷管理技術	①創傷処置			Ⅱ		
	45	②褥瘡の予防	★	Ⅱ		②褥瘡の予防		★	Ⅰ	○体位変換を「★ありⅠ」へ変更しており整合性を踏まえ、また新人看護職員でも自ら実施すべきであり、「★ありⅠ」とする。	
	46	③包帯法		Ⅱ		③包帯法			Ⅱ		
⑧与薬の技術	47	①経口薬の与薬、外用薬の与薬、直腸内与薬	★	Ⅰ	⑧与薬の技術	①経口薬の与薬、外用薬の与薬、直腸内与薬		★	Ⅰ		
	48	②皮下注射、筋肉内注射、皮内注射		Ⅰ		②皮下注射、筋肉内注射、皮内注射			Ⅰ		
	49	③静脈内注射、点滴静脈内注射		Ⅱ		③静脈内注射、点滴静脈内注射			Ⅰ	○実施者には安全かつ確実に実施することが求められる行為である。 ○施設により、実施者の取り決めが異なることから「Ⅰ」（★はつけない）とする。	【到達状況】「Ⅰ:できる」71.1%、「Ⅱ:指導の下でできる」16.9% 【妥当性】 「妥当でない」19%。日常的に多い処置であり、設定が低い等の理由。「Ⅰが妥当」86件。
	50	④中心静脈内注射の準備・介助・管理		Ⅱ		④中心静脈内注射の準備・介助・管理			Ⅱ		
	51	⑤輸液ポンプの準備と管理		Ⅱ		⑤輸液ポンプ・シリンジポンプの準備と管理			Ⅰ	○現場ではシリンジポンプも多用されているため、項目名に追加。 ○輸液ポンプ・シリンジポンプを使用している現場では、新人看護職員もできるようになることが必要であり、「Ⅰ」とする。	【妥当性】 「妥当でない」15%。日常的に使用頻度が高い。「Ⅰが妥当」57件。 【到達状況】 「Ⅰ:できる」78.4%「Ⅱ:指導の下でできる」16.9%。
	52	⑥輸血の準備、輸血中と輸血後の観察		Ⅱ		⑥輸血の準備、輸血中と輸血後の観察			Ⅱ		
	53	⑦抗生物質の用法と副作用の観察	★	Ⅱ		*⑦抗菌薬、抗ウイルス薬等の用法と副作用の観察*		★	Ⅱ	*○合成品が多くなり抗生物質とは言わず抗微生物薬と呼ばれていることから、抗微生物薬に含まれ、かつ看護師が取り扱うことが多い薬剤名の例示に修正。*	*「保健師助産師看護師国家試験出題基準」（平成26年版）の「必修問題」等の小項目に「抗菌薬」「抗ウイルス薬」がある。*
	54	⑧インシュリン製剤の種類・用法・副作用の観察		Ⅱ		⑧インシュリン製剤の種類・用法・副作用の観察			Ⅱ		
	55	⑨麻薬の主作用・副作用の観察		Ⅱ		⑨麻薬の主作用・副作用の観察			Ⅱ		
	56	⑩薬剤等の管理（毒薬・劇薬・麻薬、血液製剤を含む）		Ⅱ		⑩薬剤等の管理（毒薬・劇薬・麻薬、血液製剤を含む）			Ⅱ		

現行					修正案					
項目			★	到達の目安	項目		★	到達の目安	修正の理由	根拠となるデータ
⑨救命救急処置技術	57	①意識レベルの把握	★	Ⅰ	⑨救命救急処置技術	①意識レベルの把握	★	Ⅰ		
	58	②気道確保	★	Ⅲ		②気道確保	★	Ⅱ	○一次救命に必要な技術であり、シミュレーションによる研修の実施も可能であるため、「Ⅱ」とする。	
	59	③人工呼吸	★	Ⅲ		③人工呼吸	★	Ⅱ		
	60	④閉鎖式心臓マッサージ	★	Ⅲ		④閉鎖式心臓マッサージ	★	Ⅱ		
	61	⑤気管挿管の準備と介助	★	Ⅲ		⑤気管挿管の準備と介助	★	Ⅱ		
	62	⑥止血		Ⅱ		⑥外傷性の止血		Ⅱ	○どのような技術を指すのか明確になるよう表現を追記。	
	63	⑦チームメンバーへの応援要請	★	Ⅰ		⑦チームメンバーへの応援要請	★	Ⅰ		
⑩症状・生体機能管理技術	64	①バイタルサイン（呼吸・脈拍・体温・血圧）の観察と解釈	★	Ⅰ	⑩症状・生体機能管理技術	①バイタルサイン（呼吸・脈拍・体温・血圧）の観察と解釈	★	Ⅰ		
	65	②身体計測		Ⅰ		②身体計測	★	Ⅰ	○部署の特性や病態に応じた計測は新人看護職員にも必要な技術である。 ○卒業時の到達目標との関連から「★あり」とする。	【到達状況】 「Ⅰ:できる」90.3% 【実施頻度】 「日常的にある」64.7% 「しばしばある」14% 【卒業時の到達目標】 正確に身体計測ができる→Ⅰ
	66	③静脈血採血と検体の取扱い	★	Ⅰ		③静脈血採血と検体の取扱い	★	Ⅰ		
	67	④動脈血採血の準備と検体の取り扱い		Ⅰ		④動脈血採血の準備と検体の取り扱い		Ⅰ		
	68	⑤採尿・尿検査の方法と検体の取り扱い		Ⅰ		⑤採尿・尿検査の方法と検体の取り扱い		Ⅰ		
	69	⑥血糖値測定と検体の取扱い	★	Ⅰ		⑥血糖値測定と検体の取扱い	★	Ⅰ		
	70	⑦心電図モニター・12誘導心電図の装着、管理		Ⅰ		⑦心電図モニター・12誘導心電図の装着、管理		Ⅰ		
	71	⑧パルスオキシメーターによる測定	★	Ⅰ		⑧パルスオキシメーターによる測定	★	Ⅰ		
⑪苦痛の緩和・安楽確保の技術	72	①安楽な体位の保持	★	Ⅱ	⑪苦痛の緩和・安楽確保の技術	①安楽な体位の保持	★	Ⅱ		
	73	②罨法等身体安楽促進ケア		Ⅱ		②罨法等身体安楽促進ケア		Ⅱ		
	74	③リラクゼーション		Ⅱ		③リラクゼーション技法（例：　呼吸法・自律訓練法等）		Ⅱ	○どのような技術を指すのかわかりにくいため、具体的な内容を例示。	
	75	④精神的安寧を保つための看護ケア		Ⅱ		④精神的安寧を保つための看護ケア（例：患者の嗜好や習慣等を取り入れたケアを行う等）		Ⅱ	○どのような技術を指すのかわかりにくいため、具体的な内容を例示。	

現行					修正案						
項目			★	到達の目安	項目			★	到達の目安	修正の理由	根拠となるデータ
⑫感染予防技術	76	①スタンダードプリコーション（標準予防策）の実施	★	Ⅰ	⑫感染予防技術	①スタンダードプリコーション（標準予防策）の実施		★	Ⅰ		
	77	②必要な防護用具（手袋、ゴーグル、ガウン等）の選択	★	Ⅰ		②必要な防護用具（手袋、ゴーグル、ガウン等）の選択		★	Ⅰ		
	78	③無菌操作の実施	★	Ⅰ		③無菌操作の実施		★	Ⅰ		
	79	④医療廃棄物規定に沿った適切な取扱い	★	Ⅰ		④医療廃棄物規定に沿った適切な取扱い		★	Ⅰ		
	80	⑤針刺し事故防止対策の実施と針刺し事故後の対応	★	Ⅰ		⑤針刺し切創、粘膜暴露等による職業感染防止対策と事故後の対応		★	Ⅰ	○針刺し事故防止のみでなく、医療安全上、空気感染、粘膜暴露などの防止対策を含める必要がある。	
	81	⑥洗浄・消毒・滅菌の適切な選択		Ⅰ		⑥洗浄・消毒・滅菌の適切な選択			Ⅰ		
⑬安全確保の技術	82	①誤薬防止の手順に沿った与薬	★	Ⅰ	⑬安全確保の技術	①誤薬防止の手順に沿った与薬		★	Ⅰ		
	83	②患者誤認防止策の実施	★	Ⅰ		②患者誤認防止策の実施		★	Ⅰ		
	84	③転倒転落防止策の実施	★	Ⅱ		③転倒転落防止策の実施		★	Ⅰ	○転倒転落は高齢者のアクシデントとして最も多く、防止は重要である。入院時から転倒転落に関連したアセスメントを行うための知識と技術については習得が必要。 ○病床規模に関係なく実施頻度が高く、「★ありⅠ」とする。	【実施頻度】 「日常的にある」84.9% 「しばしばある」7.4% 【到達状況】 「Ⅰ:できる」72.7% 「Ⅱ:指導の下でできる」24.6%
	85	④薬剤・放射線暴露防止策の実施		Ⅱ		④薬剤・放射線暴露防止策の実施			Ⅱ		
					⑭死亡時のケアに関する技術	①死後のケア			Ⅲ	○超高齢化社会を迎え、新人看護職員研修においても実施すべき項目である。各施設の状況を考慮し、「★なしⅢ」とする。	

【管理的側面についての到達目標】

※第2回検討会後の修正案は斜体字で記載

【到達の目安】
★：1年以内に*経験し修得* *到達*を目指す項目
Ⅰ：できる
Ⅱ：指導の下でできる
Ⅲ：演習でできる
Ⅳ：知識としてわかる

現行					修正案						
項目			★	到達の目安	項目			★	到達の目安	修正の理由	根拠となるデータ
①安全管理	86	①施設における医療安全管理体制について理解する	★	Ⅰ	①安全管理		①施設における医療安全管理体制について理解する	★	Ⅰ		
	87	②インシデント（ヒヤリ・ハット）事例や事故事例の報告を速やかに行う	★	Ⅰ			②インシデント（ヒヤリ・ハット）事例や事故事例の報告を速やかに行う	★	Ⅰ		
②情報管理	88	①施設内の医療情報に関する規定を理解する	★	Ⅰ	②情報管理		①施設内の医療情報に関する規定を理解する	★	Ⅰ		
	89	②患者等に対し、適切な情報提供を行う	★	Ⅱ			②患者等に対し、適切な情報提供を行う	★	Ⅱ		
	90	③プライバシーを保護して医療情報や記録物を取り扱う	★	Ⅰ			③プライバシーを保護して医療情報や記録物を取り扱う	★	Ⅰ		
	91	④看護記録の目的を理解し、看護記録を正確に作成する	★	Ⅱ			④看護記録の目的を理解し、看護記録を正確に作成する	★	Ⅱ		
③業務管理	92	①業務の基準・手順に沿って実施する	★	Ⅰ	③業務管理		①業務の基準・手順に沿って実施する	★	Ⅰ		
	93	②複数の患者の看護ケアの優先度を考えて行動する	★	Ⅱ			②複数の患者の看護ケアの優先度を考えて行動する	★	Ⅱ		
	94	③業務上の報告・連絡・相談を適切に行う	★	Ⅰ			③業務上の報告・連絡・相談を適切に行う	★	Ⅰ		
	95	④決められた業務を時間内に実施できるように調整する		Ⅱ			④決められた業務を時間内に実施できるように調整する		Ⅱ		
④薬剤等の管理	96	①薬剤を適切に請求・受領・保管する（含、毒薬・劇薬・麻薬）		Ⅱ	④薬剤等の管理		①薬剤を適切に請求・受領・保管する（含、毒薬・劇薬・麻薬）		Ⅱ		
	97	②血液製剤を適切に請求・受領・保管する		Ⅱ			②血液製剤を適切に請求・受領・保管する		Ⅱ		
⑤災害・防災管理	98	①定期的な防災訓練に参加し、災害発生時（地震・火災・水害・停電等）には決められた初期行動を円滑に実施する	★	Ⅱ	⑤災害・防災管理		①定期的な防災訓練に参加し、災害発生時（地震・火災・水害・停電等）には決められた初期行動を円滑に実施する	★	Ⅱ		
	99	②施設内の消火設備の定位置と避難ルートを把握し患者に説明する	★	Ⅰ			②施設内の消火設備の定位置と避難ルートを把握し患者に説明する	★	Ⅰ		
⑥物品管理	100	①規定に沿って適切に医療機器、器具を取り扱う	★	Ⅱ	⑥物品管理		①規定に沿って適切に医療機器、器具を取り扱う	★	Ⅱ		
	101	②看護用品・衛生材料の整備・点検を行う	★	Ⅱ			②看護用品・衛生材料の整備・点検を行う	★	Ⅱ		
⑦コスト管理	102	①患者の負担を考慮し、物品を適切に使用する	★	Ⅱ	⑦コスト管理		①患者の負担を考慮し、物品を適切に使用する	★	Ⅱ		
	103	②費用対効果を考慮して衛生材料の物品を適切に選択する	★	Ⅱ			②費用対効果を考慮して衛生材料の物品を適切に選択する	★	Ⅱ		